

建築研究所ニユース



令和3年9月28日

国際地震工学研修

開発途上国13カ国21名の研究者や技術者を対象に1年間の地震工学通年研修を、Covid-19の感染防止対策を十分に施した上で実施します。

国立研究開発法人建築研究所では、開発途上国の若手研究者と技術者を対象に、地震学・地震工学・津波防災の各分野に関する「地震工学通年研修」を令和3年10月5日からリモートにて開始します。

本研修は、地震学、地震工学、津波防災の3つのコースに分かれ、最新の知見を取り入れた講義や実習を行うことにより、開発途上国における地震防災対策の向上を図ることを目的に実施されます。

研修生は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、当面、母国の自宅からリモートで参加します。今後、来日可能となった場合には、講義を受講しつつ、平成23年東北地方太平洋沖地震や平成28年熊本地震等の被災地を訪れ、被害の状況、復興、教訓等を学びます。さらに、習得した知識、技術を活用して研修生の母国で抱える個別の課題に対応するための調査研究をまとめる予定です。

なお、本研修は、独立行政法人国際協力機構及び政策研究大学院大学との連携により、政策研究大学院大学の修士課程プログラムとしても位置付けられ、所定の単位を取得すれば、修士号を取得することが可能な研修となっています。

本研修を通じて、研修生の専門知識や技術力の向上のみならず、日本人講師や研修生間での新たな人的ネットワークの形成につながることを期待されます。

今年も、昨年同様、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大という状況から、リモートによる開講式を予定しております。

<参考：第62回国際地震工学研修開講式の日程等>

日時：令和3年10月5日（火）11:30～

場所：リモート開催（建築研究所、JICA筑波共催）

研修生の出身国と人数（単位：人）

アルジェリア(1)、バングラディッシュ(1)、ブータン(1)、コロンビア(1)、エルサルバドル(2)、フィジー(1)、ガーナ(2)、インドネシア(6)、ペルー(1)、フィリピン(1)、東ティモール(1)、トンガ(2)、バヌアツ(1)

<その他研修に関する情報については、建築研究所エピストラ Vol.84¹⁾、及び、国際地震工学センターホームページ²⁾を参照のこと>

- 1) <https://www.kenken.go.jp/japanese/contents/publications/epistura/pdf/84s.pdf>
- 2) <https://iisee.kenken.go.jp/japanese/>

(内容及び開講式取材の問合せ先)

国立研究開発法人 建築研究所 (つくば市立原1)
所 属 国際地震工学センター
職 名 管理室長
氏 名 山田高広
電 話 029-879-0678(直通)
e-mail yamada@kenken.go.jp